

### 3分間スケッチ

2014. 10. 16

太田 宏

#### 楽しいスケッチ

部分着色の技法・・・建物の壁、店の看板、窓を飾る花など印象的で記憶に残った部分に絞って着色する方法 これならそう時間はかからないだろうし、かえって雰囲気ができることがある。



アクセントとしての部分着色・・・入り組んだ町並みやヨーロッパ旧市街のざわめきなどは線画で十分味が出る。こういう場合は濃い着色は線描が死んでしまうため、淡い色で塗ろう。

またなかでもアクセントになる部分を濃い目の色で着色する。



グリザイユ画法・・・色を着色する前にグレーやセピアなどで影を描きこんでしまう。これだけでも1枚の絵は完成する。この場合は明るい影から描いていく。褐色系で着色した例。



カマイユ画法・・・単色で描いく画法 墨絵のように構図や形の面白さで画材を選ぶ。



樹木を描く・・・

重なり合った枝葉を大きな一塊の形と捉え、その明暗を描き分ける。

鉛筆デッサンで輪郭をしっかり描く → 葉のかたまりと枝を描いていく → 葉の部分の暗い部分(目を細めてみると分かる)にグリザイユ画法で暗い部分をアンバー系の絵具(茶褐色、3原色の着色の場合は混色(赤青黄)+青)で塗る → 明るい葉っぱは紙の色が透けて見えるくらいの薄い色で→色んな緑の色で立体的に描いていく 樹木ほど心が弾むものはないほど、面白いもの。 けっしてべったり平板な緑一色にならないように。水を多目にした薄い色で着色を始める、色ムラがあったほうが樹木らしい、3原色画法の場合は黄色と青色をパレットで重ねず、紙のうえで合わせると色んな緑が演出できる。



建物を描く・・・

建物はデッサン力が試される。ひたすら描き続けることにより上達する。

密集した建物群は、横長の場合7等分や8等分で分割して描くとよい。縦も上下で3本くらいの線を引き分割。線はあとで消す。このとき練り消しゴムでポンポンと何回か叩くと消えていく。この方法によればどんな複雑な景色も描けてしまう。

さりげない風景を描く・・・特に有名な景色でなくても描いてみると絵になる風景はたくさん。  
レストランなんかでは、待って言う間にも絵は描ける。



picture2:Plaza del Castillo, Pamplona, Spain